

令和7年度 学校総合評価

○ 今年度の重点目標に対する総合評価

<学習・進路面>

「自主的・意欲的な学習態度の育成と学習時間の確保」を重点課題とし、平日2時間以上の家庭学習を目標に掲げたが、11月の調査では全学年で66%に留まり、特に1学年の大幅な減少が影響して目標達成には至らなかった。専門学科においては、家庭科技術検定で100%の合格率を達成し、土木科の測量士補試験でも80%と高い水準を維持している。進路支援では、教員との面談回数が目標値（1・2年5回、3年10回）を下回ったものの、90%以上の生徒が「面談が役に立った」と肯定的に捉えており、役立ち度の平均値も上昇している。学校評議員からは、学習時間という「量」だけでなく、自主的に取り組む「姿勢や内容」を重視すべきとの示唆をいただいた。

<生活面>

「遅刻生徒の減少」と「SNS等の正しい使い方」を重点課題とした。無遅刻者の割合は58%であり、体調不良や心の悩み・不安を背景とした遅刻が目立っている。SNSについては、95%の生徒が危険性を理解していると回答したが、個人情報の掲載や写真投稿などのトラブルは依然として発生しており、自分事として捉えきれていない面が見受けられる。部活動については、自己達成度が83%と目標を上回り、全国大会での上位入賞もあって高い充実度を示した。ホームルーム活動では、文化祭での協力体制が高く評価され、学校生活の充実感（77%）や積極的な参加（89%）において良好な結果が得られた。

<その他>

「心身の健康保持」については、スクールカウンセラー等とのチーム支援を適時実施し、長期欠席の予防に繋がっている。また、「進路研修（大学・企業訪問）」では、現役大学生との懇談等を通して92%の生徒が進路への関心・意欲を高めることができた。

<総合評価>

各分掌での意識的な取り組みにより、部活動や専門学科の資格取得、進路研修等で大きな成果が得られた。一方で、家庭学習時間の確保や面談回数の確保、SNS利用のモラル向上には依然として課題が残る。学校評議員からは、部活動の活気や面談の質について一定の評価をいただいた。

○ 次年度へ向けての課題と方策

次年度は、本校のスクールポリシーに即し、今年度の課題を以下の5点に集約して取り組む。具体的な計画については全教職員で協議し、改善を図る。

- ① 学習の質の向上と主体的態度の育成
- ② 面談の質の保証と多角的な生徒支援
- ③ 情報モラル教育の継続と深化
- ④ 組織的な遅刻防止対策と健康管理指導
- ⑤ 持続可能な部活動・特別活動の運営